



西尾康之

1967年東京都生まれ。武蔵野美術大学彫刻科卒業。現在同大学非常勤講師。
指で粘土を押す軌跡のみで作った雌型から作品を制作する独自の手法「陰刻鑄造」による立体造形で知られる。
全長5mの戦艦『ミンスク』(2004)や6mの巨大な『Crash セイラ・マス』(2005)など、膨大な作業と規模が圧倒的な存在感を放つ。また水墨画、油彩画等も制作している。
2016年に山本現代にて開催された個展では、ヘッドマウントディスプレイを装着し、3DCGで創られた群像を視覚的に「体験」する『R E M (Rapid Eye Movement)』を発表した。

2002年GEISAI#1 グランプリ受賞。2005年「GUNDAM—来たるべき未来のために」サントリーミュージアム天保山(大阪)、2008年「Busanビエンナーレ2008」、釜山ミュージアムオブモダンアート(釜山)、2012年「EXOTICISM」山本現代(東京)、2015年「高橋コレクション展 ミラー・ニューロン」東京オペラシティ アートギャラリー(東京)、2016年「R E M (Rapid Eye Movement)」山本現代(東京)他。